

科目名称：	デザイン・ビジネス演習Ⅱ	
担当者名：	大谷 友理, 東田 修一, 和田 紘樹, 大場 新之助, 横山 真紀	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	8
授業の目的・テーマ		
公開オーディション制を導入することにより、実社会に目を開かせ、自らの将来を意識させる。制作に対する真剣な心構えを養うとともに互いに学び合う場とし、主体的で個性ある学生の育成と研究心を養う。審査員である外部の専門家以外にも、学内の学生・教職員は、自由に公開オーディションに立ち合うことができ、責任と緊張感を持つことでプレゼンテーション能力を高める。		
授業の達成目標・到達目標		
社会の課題に対応出来る表現能力を身につけ、Illustrator、Photoshopを自在に且つスピーディに操作できるようになる。オーディション以外にも実践的な課題演習を学び、自分の得意分野を見つけ出し、どのような強みを持って社会と関わっていくかを模索する。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法/ディプロマポリシー	クオリティ	クエスト	アイデア	アイデンティティ	プレゼンテーション	合計
美術DP(1)						0
美術DP(2)	50	10	10	20	10	100
美術DP(3)						0
美術DP(4)						0
						100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》大谷 友理：デザイナー、アートディレクター、イラストレーター、Webデザイナー	《経験年数1》17年
	《内容2》東田 修一：デザイナー	《経験年数2》8年
	《内容3》大場 新之助：デザイナー	《経験年数3》11年
	《内容4》横山 真紀：デザイナー、アートディレクター	《経験年数4》20年

評価ルーブリック	すばらしい(S・4)	とてもよい(A・3)	よい(B・2)	要努力(C・1)
クオリティ (視覚表現力)	表現したいことが適切に反映されており、人に何らかの感動を与える質の高いビジュアルである。	表現したいことが適切に反映されており、質の高いビジュアルである。	表現したいことが部分的に反映されており、ある程度整ったビジュアルである。	表現したいことが十分に反映されておらず、未完成なビジュアルである。
クエスト (冒険・探求心)	テーマに対して深く探求し、あらゆる方法で取材を行って見聞を広めている。	テーマに沿って取材を行っている。	テーマに沿って部分的に取材を行っている。	テーマに沿って十分に取材できていない。
アイデア (発想・創意工夫)	着眼点が良く、新規性があり、創意工夫できている。	着眼点が良く、創意工夫できている。	ある程度創意工夫できている。	ありきたりで十分に創意工夫できていない。
アイデンティティ (独自性)	個性を磨き上げ、何物にも替えられないユニークな表現ができている。	個性を認識し、魅力的に表現できている。	個性を認識し、ある程度表現できている。	個性を有するも、十分に表現できていない。
プレゼンテーション (発信力)	参加者に目を配り、自信を持って解りやすく且つ人を惹きつける発表ができる。	参加者に目を配り、自信を持って解りやすく発表ができる。	参加者に解りやすく発表ができる。	参加者に解りやすく発表できない。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週	第1回公開オーディションに向けての研究制作1、デザインフィロソフィ1(グループワーク)	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第2週	第1回公開オーディションに向けての研究制作2、デザインフィロソフィ2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第3週	第1回公開オーディションに向けての研究制作3、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第4週	第2回公開オーディションに向けての研究制作1、デザインフィロソフィ3	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第5週	第2回公開オーディションに向けての研究制作2、デザインフィロソフィ4	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第6週	第2回公開オーディションに向けての研究制作3、デザインフィロソフィ5	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第7週	第2回公開オーディションに向けての研究制作4、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第8週	第3回公開オーディションに向けての研究制作1、デザインフィロソフィ6	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第9週	第3回公開オーディションに向けての研究制作2、外部機関と連携した課題解決型学習1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第10週	第3回公開オーディションに向けての研究制作3、外部機関と連携した課題解決型学習2、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第11週	第3回公開オーディションに向けての研究制作4、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第12週	第4回公開オーディションに向けての研究制作1、デザインフィロソフィ7	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第13週	第4回公開オーディションに向けての研究制作2、デザインフィロソフィ8	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第14週	第4回公開オーディションに向けての研究制作3、デザインフィロソフィ9、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第15週	第4回公開オーディションに向けての研究制作4、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては課題にかかわらず社会の取り組みに関心を持ち、新しいアイデアやデザインへの糧となる経験を積極的に行ってもらうことになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
前期4回開催される公開オーディション(審査)に合格することを目標に作品制作する。このオーディションに合格する回数が成績となり、単位認定とする。公開オーディションの欠席は原則不可。合格回数:4回(秀)、3回(優)、2回(良)、1回(可)、0回(不認定)

課題に対してのフィードバック

公開オーディションでは、外部専門家を招きルーブリックだけでなく多角的に評価し、口頭やコメントシートでフィードバックする。また学生同士でのディスカッションやgoogleフォームを利用した意見交換を行い、多角的に考える力、聴く力を養う。また、自身の成長や得意・不得意分野を実感できるよう各課題の評価を分かりやすく数値化し、時系列で共有する。

教科書・参考書

プリント配布及び授業時に各教員から紹介